越中万葉 歌碑 まっぷ MAP

越中万葉 おすすめコースめぐり

氷見市 — A 氷見エリア拡大マップ

氷見エリア詳細については、裏面をご覧下さい。

5 実は高岡城の石垣を転用

所射水市藤巻 藤巻神明宮境内 建昭和10年8月 書入江爲守（宮内庁御歌所長）

◆碑の歌：巻18・四〇七九
美之麻野爾　可須美多奈妣伎
之可須我爾　伎乃敷毛家布毛
由伎波敷理都追
大伴家持

【訳】三島野に霞がたなびいていて、それなのに昨日も今日も雪が降りつづいています。

6 県内最古の万葉歌碑

所富山市東岩瀬／諏訪神社入口 建嘉永6年(1852) 書千種有功（公卿・歌人）

◆碑の歌：巻19・四二四九
伊波世野爾　秋芽子之努藝
馬並　始鷹狩太爾
不為哉将別
大伴家持

【訳】石瀬野で秋萩を踏みしだき、馬を並べてせめて初鳥狩だけでもと思っていたのに、それもせずに別れることとなるのか。

7 県内最南端の万葉歌碑

所富山市八尾町井田／白山社境内 建和63年10月 書赤羽栄水

◆碑の歌：巻19・四二四八
杉の野に
さ踊る雉　いたしろく
ねにしもなかむ　隠妻かも
大伴家持

【訳】杉林の野で跳ねわる雉よ、お前は、はつきりと人に知られるほどに声を上げて泣く隠り妻だというのか。

8 県内最大の万葉歌碑（高さ4.5m）

所魚津市三ヶ／魚津水族博物館ウ右並びレストハウス・無料休憩所右 構建昭和29年3月建立、昭和55年11月移設 書山田孝雄（国語学者）

◆碑の歌：巻17・四〇二四
多知夜麻乃　由吉之久良之毛
波比都奇能　河波能和多理瀬
安夫美美都加須毛
大伴家持

【訳】立山（たちやま）の雪が融けて流れてきたらしい。延槻河（現在の早月川）の渡り瀬で、増えた水かさであぶみまでも水に濡らした。

9 川の流れは立山の雪解け水、県内最高所の万葉歌碑（標高320m）

所上市町折戸／白萩東部公民館前庭 建昭和40年11月 書堀田政重治（北陸電力久婦須川第1・第2発電所長）

◆碑の歌：巻17・四〇二四
たち山の　雪しくしくしも
はひつきの河の　わたり瀬
あぶみつかすも
大伴家持

【訳】立山の雪が融けて流れてきたらしい。延槻河（現在の早月川）の渡り瀬で、増えた水かさであぶみまでも水に濡らした。

10 県内最東端の万葉歌碑

所魚津市黒谷／片貝川黒谷橋東詰 建昭和56年12月 書宮坂翠峰（書家） 石歌碑の脇にとやまの名水「片貝川の清流」の標柱が立つ

◆碑の歌：巻17・四〇〇二
片貝の　川の瀬清く　行く水の
絶ゆることなく　あり通ひ見む
大伴家持

【訳】片貝の川の瀬も清く流れ行く水のように、絶えることなくずっと通い続けてこの山を見よう。

3 国境に立つ県内最西端の万葉歌碑

所小矢部市埴生奥山 建昭和56年10月6日 書松本正雄（小矢部市長）、矢田剛（津端町長） 石川県津幡町倶利伽羅公園内にも3基の万葉歌碑があります。

◆碑の歌：巻19・四二七九
（表）霍公鳥　夜喧をしつつ　わが夫子を　安宿な寐しめ　ゆめ情あれ
（裏）霍公鳥　夜喧乎為管　和我世豆見乎　安宿勿令寐　由米情在
大伴家持

【訳】ほとときすよ、夜中に鳴き続けてあの人を安眠などさせるな。きっと心得よ。

◆中・巻19・四一七七
（表）わが夫子と　手携はりて　暁け来れば　いで立ち向ひ　暮くれば　ふり放け見つつ
念ひ暢べ　見なぐさむ山に　八峰には　霞たなびき　谷辺には　椿花咲き　うらがなし
春し過ぐれば　霍公鳥　弥しき喧ぐぬ　独のみ　聞けばさぶしも　君と吾
隔てて恋ふる　礪波山　飛び越え行きて　明け立たば　松のさ枝に　暮くらば
月に向かひて　鳴き響め　出立向　暮去者　振放見都追　念暢
（裏）和我勢故等　手携而　暁来者　安寐宿しめず　君を悩ませ　念暢
見奈疑之山尓　八峰尓波　霞多奈婢伎　谷尓者　椿花咲　宇良悲
春之過者　霍公鳥　伊也之夜喧奴　独耳　聞婆不寒毛　君与吾　隔而恋流　利波山
飛超去而　明立者　松之枝枝尓　暮去者向月而　嘆浦　玉貫麻泥尓　鳴等余米
安寐不令宿　君尓奈夜麻勢　和我世豆見乎　安宿勿令寐　由米情在
大伴家持

【訳】あなたと仲良く手を取り合って、夜が明けると外に出て向かい合い、夕方になると振り仰いで見る山。気を晴らし慰めようにも霞がたなびき、谷の辺りでは椿の花が咲いて、なんとも心寂しい。春が過ぎると霍公鳥は鳴いてばかりで、独りだけで聞くのは寂しい。あなたと隔てられて恋しく思わせる礪波山を飛び越えて行って、夜が明けたら松の枝に、夕方になったら月に向かって、あやめ草を玉に通す五月になるまで鳴き立てて、夜が明けたらあなたを悩ませるが良い。安眠させないようにあなたを悩ませるが良い。

1 万葉の時代も今も天下の絶景、阿尾の万葉歌碑

所氷見市阿尾／榊葉乎布神社参道入口 建昭和58年1月 書茶谷一男（氷見市長） 県内最北の万葉歌碑、阿尾城跡からの眺望は抜群。

◆碑の歌：巻18・四〇九三
英遠の浦に　寄する白波
いや増しに　立てしき寄せく
東風をいたみかも
大伴家持

【訳】阿尾の浦に打ち寄せる白波は、いよいよひとくひっきりなしに立てしきりに寄せてくる。あゆの風が激しいからだろうか。

2 県内最古の万葉記念碑

所氷見市布施（円山）／布勢神社境内 建享和2年(1802)5月18日 書題字：藤原定逸（花山藤公）（正二位権大納言）、撰文：山本有香（医者）、撰文書：内藤元鑑（医者） 石水田の中に小山がポカリと浮かぶ

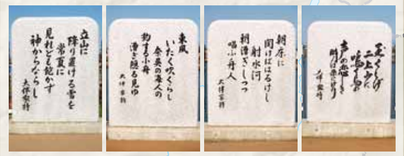
碑文：「大伴家持御遊覧之地」

- 碑の歌、碑銘は、刻されたとおりに記写しました。
- 訳は、高岡市万葉歌史館編「越中万葉百科」によります。
- 書者は、本名のものも雅号のものもあります。
- 建立年月日が碑、副碑に刻されている場合はその年月日を記しました。

所は所在地、
建は建立年月日、
書は書者（肩書きは書いた当時）
一はその歌碑に関する一言のそれぞれの略です。

4 県内最新の万葉集記念碑

所高岡市伏木古国府湊町～吉久間／伏木万葉大橋 建平成21年8月3日 書伏木中学生・志貴野中学生 到晴れた日は眺望が良い



◆碑の歌：巻17・三九八七
玉くしげ　二上山に　鳴く鳥の
声の恋しき　時は来にけり
大伴家持

【訳】二上山に鳴く鳥の声が恋しくてならない時が、とうとやってきた。

◆碑の歌：巻19・四一五〇
朝床に　聞けばはるけし
射水河　朝漕ぎしつつ　唱ふ舟人
大伴家持

【訳】朝の床の中で耳を澄ますと遠くはるかに聞こえてくる。射水河を朝漕ぎながら歌う舟人の声が。

◆碑の歌：巻17・四〇一七
東風　いたく吹くらし
奈呉の海人の　釣する小舟　漕ぎ隠るらむ
大伴家持

【訳】あゆの風が激しく吹いているらしい。奈呉の海人たちの釣りをする小さな舟が漕ぎ進むのが、高波のあいだから見え隠れしている。

◆碑の歌：巻17・四〇二一
立山に　降り置ける雪を
常夏に　見れども飽かず　神かからしも
大伴家持

【訳】立山にたちゃまに降り置いている雪は、夏の今見ても見飽きることがない。神の山だからにちがいない。

越中万葉 おすすめコースめぐり

高岡市 — B 伏木・二上エリア拡大マップ

伏木万葉歌碑満腹コース 計:1時間18分(78分)

JR伏木駅 3分 伏木気象資料館 3分 勝興寺 5分 寺井の井戸 3分 「伏木古府」交差点 4分 伏木中学校前裾の社公園 3分 「万葉歴史館口」交差点 5分 高岡市万葉歴史館 11分
気多神社 7分 国分寺跡 2分 「気多神社口」交差点 2分 「伏木一宮」バス停奥 8分 伏木小学校 4分 光照寺 2分 伏木神社 2分 赤坂の水神様 3分 伏木北前船資料館 5分 JR伏木駅

オレンジ色の路が伏木万葉歌碑満腹コースです。